

# 生みの親のプライドにかけて お客様のニーズを必ず実現する！

株式会社 西村製作所

## 「国産スリッターを生み出したのは 我々、西村製作所なんです」

スリッターという機械をご存じだろうか？ 素材を帯状に細く切って巻く機械で、大量生産には欠かせないという。このスリッターの生みの親が京都にある西村製作所だ。

現代の製造業では、大量生産品を製造する工程の中で、必ずスリッターが使われているという。西村製作所は、そのスリッターを生みだし、現在もリーディングカンパニーとしてスリッターの企画・設計・製造・メンテナンスを行っている。「スリッターは切って巻き取る機械です。京都では当社が開発したスリッターが西陣織に欠かせない金銀糸の製造に使われ、大いに普及しました。スリッターを開発するまでの西村製作所は、大手メーカーの下請企業だったんです」

と語る西村社長。その後、切って巻き取る素材の種類が増え、紙、フィルム、鉄板、トタン板など、ニーズは広がっていった。

「現在、弊社スリッターの最細幅は0.15ミリです。最近、最も多いのは携帯電話などに使われるリチウム電池関係ですね」

スリッターは、キレイにカットする技術と巻き取る技術の両方が重要で、張力が違ったり、機械のローラーが少しでもずれるときれいに巻き取れない。

「時代によって切るものが変わるのもスリッターの特徴です。新素材が出ると、それを切るための新しい機械が必要になります。また、大量生産品の場合、素材をロールにした方が持ち運びやすく、保管しやすい。だからスリッターが使われま

す、レシート、名刺など、どれも生産工程の中で、一度はロール紙の状態になります。つまり、一度はスリッターを通過しているんですよ」

スリッターは切る素材ごとに、仕様が異なるため、すべて受注生産になる。

「1台ごとにチームを組んで、設計から納品まで担当します。ですから、社員の連帯感、達成感は非常に大きく、モチベーションも高いですね」

最近ではインターネットからの受注も増えているが、海外からの引き合いについては、商社経由のことも多いという。

「最近引き合いをいただくお客様は、既に当社の機械を所有しておられるケースが多く、今までの実績から選んでいた部分も大きいと思います」

## お客様のニーズと信頼こそが 技術開発のモチベーション

すべてはお客様のニーズから始まる。「弊社はお客様の依頼を断らないのがモットーで、競合企業にも『そんな厳しい仕様なら、西村製作所へ行ったらどうですか』と言われるほどです。難しい仕様に取り組むほど、弊社の技術は向上しますからね。自分達だけで技術を上げることは難しいですが、お客様のニーズを裏切らないように挑戦していけば、必ず新しい技術が生まれます。今後、どんな素材を切るかはわかりませんが、新素材を切れば、また技術が一つ上がることになります。実際に、そうして多くの国際特許を所有しています」

取材時は、6mのスリッターを製造していた。巨大になるほど、張力管理も切り方も巻き取りも難しくなる。そのため多く



一台のスリッター製造をチームで担当する



製造したスリッターの設計図は全部保管庫で保管



スリッターでカットした金属。板のようだが巻かれている

の工夫と技術が投入されることになる。例えば、ローラーと接した面が傷つかないようにゴムのローラーにしたり、サーボモーターで個別にローラーを動かして制御したり。モーターもモーターメーカーと共同開発している。

## 作った製品に責任を持つために メンテナンス体制も万全

スリッターはオーダーメイドのため、小型でも1,200万円ほどする。

「スリッターは高価な機械です。そのためメンテナンスの要望も多数いただきます。スリッターは数十年使用可能なため、修理、部品交換、オーバーホールといった、メンテナンス体制もしっかり整えています。30年前の機械でも、すべて当社で保管している当時の設計図面から部品を調べてその都度作ります。オーダーメイドなのでその方が安心です。図面を管理して、メンテナンスまできっちりさせていただく姿勢を評価いただき、次の注文に繋がることも多いです」

スリッターの市場は100億円程度で、それを数社で競合している。

「弊社は、メーカーとして製造し、納品した製品を中途半端にはできません。半永久的にメンテナンスするのは使命であり、責任だと考えています。結果としてそ

れが信用や利益に繋がっており、本当にお客様に恵まれていると実感しています」

業界では、技術面においては西村製作所がかなり優位に立っているが、価格面では絶対的なアドバンテージはないという。

「スリッターは価格が安ければ売れるわけではありません。完成品の精度やメンテナンスなどのレベルがトータルで高ければ、値段が多少高くても受注できます。それだけ高価で厳密な精度が求められる機械と言えるかもしれません」

## 会社の柱は、やはり人材。 全員が正社員として働く

現在、西村製作所で働く人は、全員が正社員だ。派遣社員はいない。

「最近是不景気のせいか、欲しい人材が確保できています。中小企業はこういう時期に採用しないといけないと感じています。大学とコミュニケーションを密にしたり、教授から紹介してもらうこともあります。求人サイトには出していません。『労力は掛けてもお金は掛けない』のが方針なんです」

と岡田取締役。

社内は家族的な雰囲気という。工場では焼肉パーティをしたり、ボーリング大会を

すると100人以上集まり、50周年の社員海外旅行にはほぼ全社員が参加した。

「会社の雰囲気も非常に良いですね。離職率も低いですよ。社員への利益還元も徹底していて、年間の利益の半分は賞与として支給します。いかにやる気を持って働いてもらえるかを常に考えています」

## いかにして若手に引き継ぐか 次世代が担う西村製作所

西村社長に今後の課題をたずねた。

「次世代へのバトンタッチですね。期限はありませんが、早くバトンを渡さないと次が育ちません」

もちろん手は打っている。団塊の世代が退職した分は、すべて新卒を採用し、経営陣の若返りを図るなど、次世代にうまくバトンを渡すための準備を進めている。

「ここ最近では黒字が続いています。絶えず技術開発から逃げずに、真摯に取り組んでいきたいですね」

取材協力/Short Cappuccino 中直照



全長6mの大型スリッター

### 株式会社 西村製作所

〔住 所〕 京都府京都市南区上鳥羽南苗代町21番地  
〔業 種〕 スリッター（自動切巻取機）の設計・製作・販売  
〔代 表 者〕 代表取締役 西村孝昭  
〔資 本 金〕 3億7,600万円  
〔従 業 員 数〕 143名  
〔取 材 日〕 平成22年9月22日（水）  
〔取材対象者〕 代表取締役 西村孝昭氏、取締役 岡田則之氏

〔沿革〕  
昭和21年 創業（機械修理と部品加工）  
昭和29年 スリッター第1号機完成。販売開始  
平成14年 「知財功労賞」特許庁長官表彰受賞  
平成16年 「近畿地方発明表彰」実施功績賞受賞  
平成22年 クリーンルーム完成  
平成22年 「2010KANSAIモノ作り元気企業100社」選定



代表取締役  
西村孝昭氏